

1 木造不動明王及二童子立像

種別 有形文化財（彫刻）
 数量 3 軀
 所在地 横須賀市西浦賀2丁目5番
 所有者 宗教法人常福寺

常福寺の本堂内に安置される不動三尊像です。

かつては近隣の叶神社(西叶神社)の別当であった感応院西栄寺の本尊であって、明治初年の神仏分離の際に常福寺に移されたものです。中尊に不動明王、左に矜羯羅童子、右に制■迦童子を配します。

本像は比較的小像ながら、太い体軀、意志的な面貌、大腿部の裳にみられる写実的な衣文表現がされ、運慶にはじまる慶派仏師の系譜を引く作品です。

造立年代は鎌倉時代中期とみられ、運慶やその工房作品が多く残る本市域での慶派作品の展開を考えるうえで重要な作品となります。

(*■は 口+毛)



2 紙本著色板貼付 釈迦三尊図 附 蓮池図板戸

種別 有形文化財（絵画）
 数量 1面 附4面
 所在地 横須賀市芦名2丁目2433番
 所有者 宗教法人浄楽寺

浄楽寺本堂の来迎壁背面に大きく描かれた釈迦三尊図です。画面中央に釈迦を、左に騎象普賢、右に騎獅文殊を配しています。

三尊、獅子や象をとらえた筆線は滞りなく闊達で、構図も整い、大画面は破綻なくまとめられ、画家の優れた技量をうかがわせます。

作者は、近隣の鎌倉雪之下在住の戸川雪貢で、制作年は天保8年（1837年）であることが画面向かって左下部分にある款印からわかります。

釈迦三尊図の下方に地袋が設けられ、前面の板戸4面それぞれに蓮池図が連続的に描かれています。筆致から同じく雪貢の筆であろうと考えられます。

幕末期に制作された仏画、それも寺院障壁画の大作として重要な作品となります。

